

[4] 研究開発単位Ⅳ「GLOBAL STUDIES」

●6つの資質・能力を育てる授業改善の取組

このプロジェクトは、中学高校の各授業の中で、本校の定める資質・能力を向上させ、未来行路やSOZAN 国際塾での取組の基礎を作ることを目標としている。学校全体で育成する6つの資質・能力を各教科に落とし込み、到達度目標を記した「SOZAN Global Can-do List」を作成した。この中で各教科の「目指す生徒像」を設定し、日々の授業に落とし込み、このリスト活用しながら、生徒側・指導者側両方のPDCA を確立していく。

○1年間の取組

月	事業
4月	SOZAN Global Can-do List の完成 中高合同統一テーマの決定, 研究開始 SOZAN Global Can-do List を活用した授業の開始
5月	教科テーマの決定および研究計画書提出 アドバイザースタッフの決定・委嘱 SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
6月	SOZAN Global Can-do List に沿った授業の実践 岡山操山中学校・高等学校教育研究会(英語)の開催
7月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践 GLOBAL STUDIES 会議(進捗状況の共有・計画の確認)
8月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
9月	Global Can-do List を活用した授業の実践
10月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践 岡山操山中学校・高等学校教育研究会(国語・理科)の開催
11月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践 岡山操山中学校・高等学校教育研究会(国数英音保体)の開催
12月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
1月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
2月	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の実践
3月	GLOBAL STUDIES 総括会議 研究紀要「操山論叢」発行

①SOZAN Global Can-do List の作成

この SOZAN Global Can-do List は、中・高の教職員間、そして、生徒とも共有しながら、3年間あるいは6年間をかけて、6つの資質・能力を育てるための到達度目標表である。この SOZAN Global Can-do List の中で示した「目指す生徒像」の育成を目標に、各教科で授業改善に取り組むとともに、継続的に効果の検証および授業評価・改善を図る。

□作成手順とねらい(図1参照)

①学校全体で「目指す生徒像」を共有する。

②そのイメージを「育成する資質・能力」に落とし込む。

*「認知的スキル」と「非認知的スキル」に大別し、それぞれ3つの資質・能力で表現し、6つの資質・能力を教育活動の中で育てていく。

③さらにそれぞれの資質・能力を具体的なキーワードでイメージを共有する。

④⑤⑥で目指す方向性を昨今のトレンドとの共通点を確認する。

⑦各教科での授業でのイメージをつかみ、日々の授業に落とし込む。

⑧各資質・能力を具体的に捉え、「～することができる」という到達度目標の記述になるよう橋渡しする。(図2参照)

*この解釈をもとに各教科で各学年での到達度目標を作成することで、目標を共有し、達成度を測る手段を模索しながら、生徒の変容を捉えると同時に、日々の授業改善に役立てていく。

(図1)

①目指す生徒像(全体)						
「和して流れず」・「松柏」の精神で次代を担う高い志を持ち、未来の岡山と世界のWell-beingの実現に貢献するグローバル・リーダー						
②育成する資質能力	認知的スキル			非認知的スキル(社会情動的スキル)		
	幅広く深い教養	課題発見・解決能力	新たな価値を創造する力	主体的に行動する力	他者と協働する力	自他を尊重する心
③ 具体的資質	・基本的な認知能力 (パターン認識) (処理速度) (記憶力)	・知識の獲得 (探究) (取り出し) (解釈)	・知識の推察 (熟考) (推論) (概念化)	・目標達成 (忍耐力) (自己制御) (目標への情熱)	・他者との協働 (社会性) (尊重) (思いやり)	・感情の管理 (自尊心) (楽観性) (信頼性)
④ 学指導要領との関連	☆知識・技能	☆知識・技能 ☆思考力・判断力・表現力	☆知識・技能 ☆思考力・判断力・表現力		☆思考力・判断力・表現力	
⑤ OECD教育との関連	●知識 ●スキル	●知識 ●スキル	●態度・価値 ●予測・振り返り・行動	●態度・価値 ●予測・振り返り・行動	●予測・振り返り・行動	●予測・振り返り・行動
	●批判的思考力・創造的思考力・学び方を学ぶ・自己調整力			●新たな価値を想像する力・責任ある行動をとる力・対立やジレンマを克服する力		
⑥ UNESCO教育(ESD)との関連		○体系的な思考力 ○代替案の思考力 ○データや情報の分析能力	○体系的な思考力 ○代替案の思考力 ○データや情報の分析能力		○コミュニケーション能力 ○リーダーシップの向上	○持続可能な開発に関する(価値観) ○持続可能な開発に関する価値観
⑦ 各教科との関連	▲教科書・関連素材の理解	▲情報の内在化	▲応用・紐付け	▲自己評価・振り返り ▲計画性 ▲変容	▲グループワーク ▲ペアワーク	▲楽しい ▲充実感
国語	★	★	★	★	★	★
地理・公民	★	★	★	★	★	★
数学	★	★	★	★	★	★
理科	★	★	★	★	★	★
保健体育	★	★	★	★	★	★
芸術	★	★	★	★	★	★
外国語		★	★	★	★	★

(図2)

SOZAN Global Can-do List (教科:)						
目指す生徒像(教科)	認知的スキル			非認知的スキル(社会情動的スキル)		
育成する資質能力	自身が所属する社会の幸福を実現することができる			自他の幸福を創造し続けることができる		
	①幅広く深い教養	②課題発見・解決能力	③新たな価値を創造する力	④主体的に行動する力	⑤他者と協働する力	⑥自他を尊重する心
⑧ 解釈	グローバルな課題を理解できる国際的な素養がある	グローバルな視点で課題を発見し、論理的に解決策を考え、発信することができる	既存の価値を融合し、自由な発想で新しい価値軸を創ることができる	目標に向かって自主的に考え、自律的に判断し、決断し、積極的にかつ誠実に実行し続けることができる	自己を理解し、自立した人間として、他者と共に心を通じ合わせてよりよい社会の実現を目指すことができる	社会における自己を認識し、自他の存在意義を認めることができる
H3						
H2						
H1						
J3						
J2						
J1						

*各教科での「目指す生徒像」を設定している。

*「解釈」の部分は非表示にしてある。

*J1~H3 は中1~高3を示している。

*図1の各教科の★が示すように、教科によっては資質・能力の枠をつなげて表現しているところもある。

□各教科の SOZAN Can-do List

*今年度は巻末に資料として国語, 数学, 英語のみ掲載する。

②中高の統一テーマの設定

4月に, 取組の目標となる中高の統一テーマを次のように設定して取り組んだ。

幅広く深い教養を有し, 自ら課題を設定し, その解決のためクリエイティブに思考し, ダイナミックに行動するグローバル・リーダーの育成に向けた取組
～SOZAN Global Can-do List を活用した指導と評価の一体化～

この統一テーマのもと, 各教科が主体となって教科テーマを設定し, 研究計画書に沿ってグローバル・リーダーの育成に取り組んだ。次の表は, 各教科の教科テーマである。

教科	教科主題
国語科	SOZAN Global Can-do Listを活用した授業改善の取組
地歴公民科 社会科	SOZAN Global Can-do List を活用した授業の展開と評価
数学科	授業で育てる資質を踏まえた課題学習における教材開発
理科	効果的な仕掛けづくりの精査・活用
保健体育科	自ら進んで問題解決に取り組む姿勢の育成
芸術科 (音楽)	多様な音楽活動を通じた課題解決・コミュニケーション能力を育成するための課題・指導法の研究
英語科	技能と教養をバランスよく伸ばす指導法の研究 ～SACLAとGCLを活用した授業改善と指導と評価の一体化～

③アドバイザースタッフによる研究

7つの教科でアドバイザースタッフを大学にアドバイザースタッフ(全6名)を依頼し, 1年を通じて, 授業改善に向けた指導をしていただいた。

教科	アドバイザースタッフ
国語科	ノートルダム清心女子大学文学部 教授 伊木 洋
地歴・公民・社会科	ノートルダム清心女子大学文学部 教授 河合 保生
数学科	岡山大学大学院教育学研究科 教授 岡崎 正和
理科	岡山大学大学院教育学研究科 特任教授 三宅 正志
保健体育科	岡山大学大学院教育学研究科 准教授 原 祐一
芸術(音楽)	(今年度はなし)
英語科	岡山大学大学院教育学研究科 特任教授 高塚 成信

④研究計画書の作成

各教科の取り組みが計画的なものとなるように, 5月初旬に各教科が「研究計画書」を作成し, 1年間を通して計画的に取り組めるようにした。

教科	実施日	中学校授業者(学年・教科)	高校授業者(学年・教科)
国語	10月13日(木)	古浦 彰久(1年・国語)	阿部 雅美(1年・言語文化) 平野 優(1年・現代の国語)
	11月18日(金)		
社会科 地歴公民	11月10日(木)	荻野 郁弥(1年・地理分野)	貝原 謙二(2年・日本史B) 脇坂 祐司(1年・歴史総合)
	12月20日(火)		
数学	11月22日(火)	福永 義行(2年・数学)	藤田 信一(1年・数学A)
理科	10月24日(月)	今井 直子(3年・理科)	青山 悠女(1年・化学基礎)
芸術 (音楽)	11月10日(木)		佐藤 量太郎(1年・音楽)
保健体育	10月27日(木)	板野 友貴子(1年・体育)	岡本 則清(1年・保健)
英語	6月21日(火)		安藤 博巳(3年コミュ英Ⅲ発展) 村木 明子(3年コミュ英Ⅲ発展) 山本 浩史(3年コミュ英Ⅲ標準)
	11月22日(火)	松原 弓子・小林 留美 (2年・英語)	武田 成弘(1年コミュ英Ⅰ標準)
	2月21日(火) (校内研修)		杉山 良介(1年英コミュⅠ発展)

⑤研究紀要「操山論叢」の発行

今年度、中高の統一テーマのもと、1年をかけて研究・実践を行ってきた。その成果発表の場として操山中高教育研究会を行ったが、本校の取組を見ていただけるのは参加者に限られる。そこで、本校の取組を広く知ってもらい、各学校の取組の参考にしてもらうため、7つの教科の1年間の研究の成果を研究紀要「操山論叢」にまとめ、年度末には県内の教育機関(岡山市内の中学校、県下の高等学校等)に配付する予定である。

●各教科の主な実践

①国語:11/13中:自分の意見文に対する友達の文章を読んで、より説得力のある意見文に書き直す。

11/18高:短歌に表現された世界や心情を読み取り、その作品に対する返歌を学習者自身の体験や思い出を通じて創作する。

②地歴公民:12/20中:アメリカ合衆国の旅行計画を通して、特色をまとめる。

11/10高:室町幕府全盛期の3代将軍足利義満が作った幕府の仕組みや目指した支配のあり様はどんなものだったかを探る。

③数学:11/22中: $\frac{7}{2}$ 角形, $\frac{7}{3}$ 角形の場合, 中心から各頂点を結ぶ補助線を引くと, 内角の和はどのよう
に求めることができるのか説明する。

高:多面体を切断してできる正多角形, 正多面体および半正多面体を見だし, それぞれの条件を満たすことを根拠を持って説明できる。

④理科:10/24中:食酢中の酢酸の量を調べる。

高:共有結合の特徴を理解し、電子式を書くことができる。

⑤保健体育:10/27中:バレーボール;相手のいないところのボールを「落とす」ためにどのように組み立てるか、チームでアイデアを出し合っ、ゲームの中で工夫する。

⑥芸術(音楽):11/10 高:テーマに沿ってオリジナルのメロディを作る。

⑦英語:6/21高:自分たちで調べた lower-skilled job と higher-skilled job の定義と授業内容から、これから必要な資質・能力を考え表現することができる。

11/22中:発表;互いに質問やアドバイスをしてよりわかりやすい発表になるように改善する。

高:犬の品種改良が行われてきた理由と品種改良のよい面について理解できる。

●具体的な取り組み(例)

(例1)国語:(「操山論叢」より抜粋)

国語科(言語文化)学習指導案

岡山県立岡山操山高等学校 普通科 1年5組

令和4年11月18日(金)第2校時

1年5組教室

指導者 阿部 雅美

○単元名

思いが伝わる短歌を創作しよう

—自分の体験や思いが効果的に伝わるよう表現の仕方を工夫する—

(近現代の詩歌 第一学習社)

○指導上の立場

・単元観

直近の単元として、『伊勢物語』を読み、和歌の学習に取り組んだ。『伊勢物語』は歌物語であり、和歌を中心に据えながら、その和歌が詠まれた経緯やそれに対する反応を物語で表現したものである。しかし、生徒は和歌に込められた心情やその表現を自分ごととして味わうまでには至らなかった。本単元では短歌を学び、実作に取り組むことで、現代に生きる学習者自身の体験や心情が、和歌と同じ五七五七七という形式や表現技法によって表現でき、他者と共有できることを実感させたい。

・生徒観

本校では中学校と合同で11月下旬に歌人を講師に招き「文化としての表現講座」を開催している。事前に短歌や俳句を詠み、クラス句会で秀句を選出し、全体会で講師から講評をいただいている。その講座に向け、「夏を2首詠む」「秋を詠む」という課題に取り組みさせた。夏の短歌は、1首は兼題「ビーチ」「ひまわり」「BBQ」とそれぞれのイメージ写真を見て、もう1首は自由な題材で詠ませた。秋の短歌は修辞法を意識して詠むという課題にした。生徒は家族や友人との生活の様子を詠み、提出された短歌から、自己の内面に向き合ったり、他者を理解しようとしたりする様子が伺えた。多くの生徒が創作活動に意欲を示した。

・指導観

生徒観で述べたように、生徒は自身の体験や心情を題材に短歌を詠むことには積極的に取り組むことができた。しかし、古典作品の和歌に込められた心情を自分に置き換えて想像したり、理解(共感)したりするまでには至らなかった。そこで歌人と同じ状況に置かれたとき、自分ならどのような短歌を詠むか、あるいは歌人の短歌を自身へのメッセージであると仮定し、そ

の返事を短歌で詠むという学習活動を通して、歌人の心情を自分ごととしてとらえさせることを考えた。この活動を通して、近現代の短歌だけでなく、古典作品の理解も深めることができると考えている。

第一次では既習事項の和歌の修辞法や古典文法を踏まえつつ、短歌の表現技法を理解し、作者の心情が込められた表現に注目させる。第二次では読み取った心情を自身と重ね合わせ、同じ状況になったときどのように詠むか、表現の中心になるキーワードを考えさせる。第三次が本時となる。前時で作成したキーワードを Google ジャムボードで他の生徒と共有し、表現したいことが明確になるよう、表現や語彙等表現の仕方を工夫し、返歌に相当する短歌の完成を目指す。第二次・三次の活動を通して、学習自身との関わりの中で短歌を味わい表現できることを実感させたい。

○本時案（第3次 第1時）

（1）本時の目標

自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。

（2）展開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 目標の確認	○ 目標を示し、学習の見通しを持たせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 目標 短歌に表現された世界や心情を読み取り、その作品に対する返歌を学習者自身の体験や思いを通じて創作する。 </div>		
2 前時の学習をグループで共有し、内容を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人が前時で考えたキーワードをジャムボード共有させ、整理させる。 ○ 個人の意見をもとに、適切な表現方法や語彙をグループで検討させる。 	「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。A（1）イ
3 短歌の作成	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループの意見を元に個人で短歌を作成させる。 ○ 完成した短歌をグループ内で発表させ、鑑賞させる。 ○ 完成した短歌をジャムボード上に貼り付け、他のグループの生徒も鑑賞できるようにさせる。 	
4 授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 完成した短歌の鑑賞文を作成することを予告する。（C）と判断される生徒（主に短歌作成に至らなかった生徒を想定）に対しては、他の生徒の返歌を参考に返歌作成に引き続き取り組むよう指導・助言を行う。 	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

歌人の短歌を自身へのメッセージととらえ、返歌となる短歌を作成するため、学習者自身

の体験やの生徒に思いを表現するために適切な文体や語彙を考えようとしている。

(3) 準備物

- ・ chromebook
- ・ 短歌の読解プリント・ワークシート

○成果

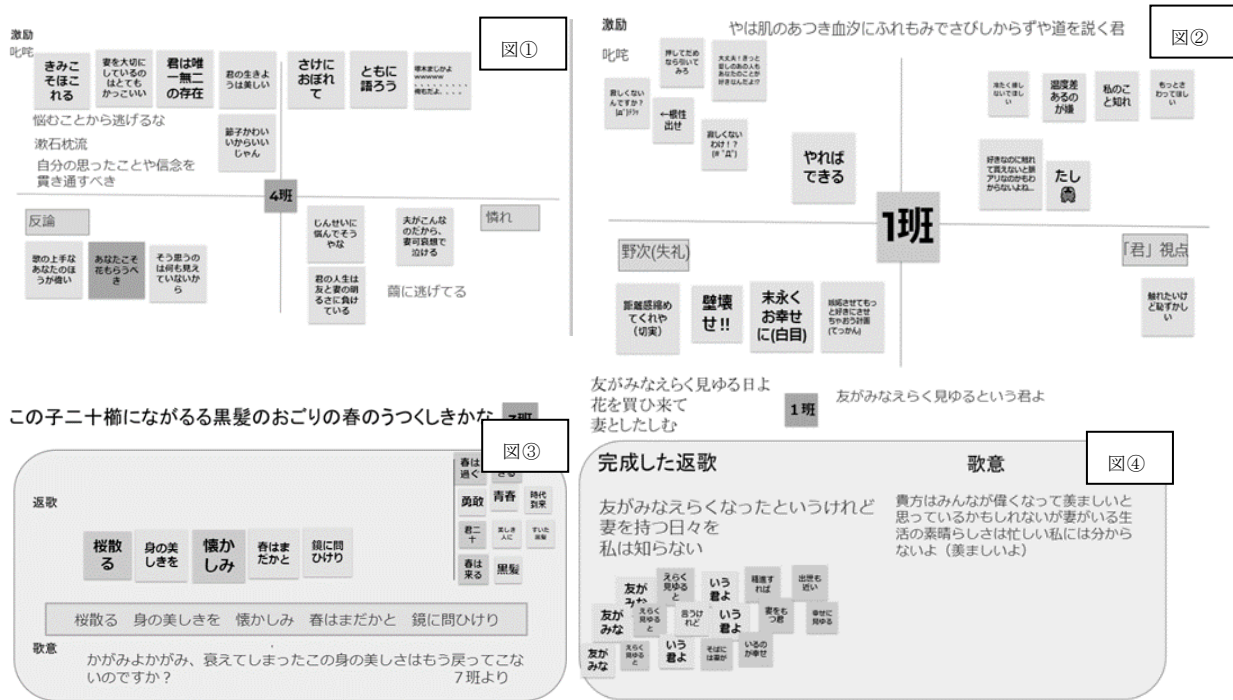
① 「古典の和歌」から「現代の短歌」へ

1年生は「言語文化」の中でまず1学期は「古典」に取り組む。基本的な文法や古語を習得しつつ、古典作品に慣れていく。そして2学期になり歌物語である『伊勢物語』を素材に、「和歌」について学習した。和歌に用いられる修辞法や、和歌に込められた心情の読解を通して、作品を理解するのである。

また、夏期休業中の課題である「短歌の歌人レポート」の作成では、近現代の歌人以上に古典として知られる和歌を取り上げ、レポートを作成した生徒が多く見られた。これは中学校までに「百人一首」等に触れる機会があり印象に残っていたことが要因とみられる。このように「和歌」と「短歌」は同じものにとらえている生徒が多い実態である。生徒にとって同じ短詩型文学として違和感なく受け入れられていると捉えることもできるかもしれない。実際に短歌を創作する段階で、あえて「古語」や「古典文法」を取り入れる生徒も多く見られた。

② 「短歌」への積極的なアプローチ

以下の図は学習指導案の「指導観」で述べた生徒の活動である。ジャムボードを活用し、自分の意見を他の生徒と共有し、短歌をどのように感じたかについて意見交換をしている。(図①・②)



図③・④は班ごとに「返歌」を作成し、他の班にどのような歌意か意見を述聞いた後、自分たちが考えた歌意を書き込んだものである。活動後の生徒の意見としては「歌人の短歌に対する意見はどの班も共通していたのに、自分たちの返歌に込めた思いや考えが伝わらなかった」というものが多かった。

(例2) 数学(「操山論叢」より抜粋)

数学科(数学 A)学習指導案

岡山操山高等学校 数学科 1年4組 40名
令和4年11月22日(火)第3校時 1年4組HR教室 指導者 藤田 信一

○単元 第2章 図形の性質

教科書 高等学校 数学A (数研 数A 713) 出版社 数研出版

○目標 平面図形・空間図形に関する基本的な性質について理解すること。

○単元観

中学校では基本的な作図や三角形の合同条件, 相似条件などの図形の性質や円の性質など平面図形に関する基礎的な知識を学ぶ。

高等学校においては, それらを基に, 他の図形と関連した平面図形の性質を知るとともに, 図形の性質を作図に活用することで, 図形を多様な見方で捉えることができる。また, 空間図形は視覚的に捉えることが難しいため, 平面上に図を描いて考察する必要があるが, その補助として, 立体模型やICTといった補助教材を活用することで, 自ら図形をイメージする力を養うことで, 様々な図形について考察することができるようにする。

○生徒観

本学級の生徒は, 概ね学習意欲があり, 学習課題に前向きに取り組むことができる集団である。また, グループ活動にも活発に取り組むことができる。その一方で, 学力差が非常に大きく, 既習の公式や定理などの基礎的な知識や, 数および文字の計算技能の定着度合いが二極化している。そのため, 互いに助け合いながら, 主体的に学習活動に取り組むことができるような授業展開を確立していきたい。

○指導観

- ・基本的な事項を習得する部分は一斉授業, 思考・判断が必要な部分はグループでの学習活動や発表を取り入れた授業を場面に応じて展開する。
- ・ワークシートを用いて生徒の活動の支援をする。

本 時 案 (第二次の第4時)		
目 標	○正多面体を切断してできる他の図形を見い出すことができる。また, その図形が正多角形, 正多面体や半正多面体にあたるかどうかを説明できる。 【思考・判断・表現】 ○生徒同士が, 互いの多様な考え方を認め合い, 学び合うことで, より深い理解に到達することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	
学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 本時の目標と流れを確認する。 【2分】	○本時の流れ(学習活動2~7)を伝える。 ○4人班を10作り, 正多面体5種×2班に分担を割り振る。	
目標：正多面体を切断してできる正多角形, 正多面体および半正多面体を見出し, それぞれの条件を満たすことを根拠を持って説明できる。		
2 正多面体の定義を確認し, さ	○正多面体の定義は ①全ての面が合同な正多角形	

<p>らに、半正多面体の定義を知る。数学Aの教科書P118・119で正六面体を切断してできる正四面体や正八面体、P117で正六面体に含まれる半正多面体の例を確認する。 【3分】</p>	<p>②全ての頂点に集まる面の数が等しいことを確かめ、半正多面体の定義は ①全ての面が2種類の合同な正多角形 ②全ての頂点に集まる面の種類と順序が等しいことであると伝える。</p>	
<p>3 正多面体5種の担当で班分けをし、机を合わせる。ワークシートおよび模型等を受け取る。 【3分】</p>	<p>○担当の座席をスライドで示す。 ○模型と紐を貸し出す。また、正多面体をGeogebraで見ることができリンクをClassroomで共有する。</p>	<p>○正多面体に含まれる図形について、協働して考察しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <観察></p>
<p>4 正多面体を切断してできる他の図形はどのようなものがあるかを協議する。 【8分・前半】</p>	<p>○後にグループで他の生徒に説明できるよう、担当者全員が理解できるように工夫すること、メモをとるなど声かけをする。 ○模型やGeogebraを用いて説明しても良いが、模型は数が限られていることに留意させる。</p>	<p>○協議した内容をグループ内で説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 <観察></p>
<p>5 正多面体5種の班のうち、片方の班に、ここまで出てきた図形について、全体に向けて説明させる。 【2分×5】</p>	<p>○1分で発表させ、正多角形、正多面体および半正多面体の条件を満たすかどうかを確認するなどの助言をする。</p>	<p>○正多面体に含まれる図形について、協働して考察しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <観察></p>
<p>6 正多面体を切断してできる他の図形はどのようなものがあるかを協議する。 【8分・後半】</p>		<p>○協議した内容をグループ内で説明できる。また、他の担当者から得た情報を自分なりにまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <観察・ワークシート></p>
<p>7 正多面体の担当者を1人ずつ集めたグループを作り、担当者が他の生徒に説明する。説明を聞く生徒はワークシートにまとめる。 【2分×5】</p>	<p>○正多面体1つにつき、1分30秒で共有できるよう、時間を計測する。</p>	
<p>8 正多面体に、他にも図形が含</p>	<p>○4・6で机間指導しながら、生徒が気づいていないものについて補足する。</p>	<p>○正多面体を切断してできる図形について、自分なりの見方を身につけている。</p>

<p>まれていたかどうか確認する。 【3分】</p>	<p>○双対多面体とは、多面体の頂点と面を入れ替えた立体のことであると伝える。</p>	<p>【思考・判断・表現】 <Forms></p>
<p>9 Global Can-do List に基づく振り返りをFormsで行う。 【3分】</p>	<p>○次時は立体図形のまとめとして節末問題に取り組むことを予告し、予習の指示をする。</p>	

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿の例

- ・協議に参加し、自分なりの考えをもって協議することができている
- ・ワークシート上に、他社から得られた情報を自分なりにまとめている。

○目標達成状況

- ・立体について、平面で考えることは難しい課題だったが、実物を前にすると、班で協議を行いやすく、活発に意見を交わしていた。空間図形と空間図形の関係性について、多くの生徒の理解度が深まったようだった。
- ・多くの班で、各辺の中点を結んだ線分で切断する場合を見いだすことができ、一部の班で、辺の重心を結んだ線分で切断する場合や切断する線分が表面に現れない場合を見いだすことができた。
- ・最終的には授業者がその他の場合を紹介したが、多くの生徒が納得して終えることができた。

○生徒の感想

- ・ある多角形から別な多角形を切り出せることを学んだ。先生が最後言った双対多面体という語もった。(幅広く深い教養)
- ・正多面体は、基本的に辺の中点を結んで切り取ると半正多面体ができる。(知識・技能)
- ・何本の紐を使うかで、つくれる図形が変わってきた。色んな方向から図形を見るのが面白かった。(興味・関心)
- ・正多角形から半正多面体などを取り除いたり中に入っていたりした。どんな形になる考えることができた。(思考・判断)
- ・習ったことを総動員して、使う。三角形の重心をつないでいくと、正五角形で半多面体を作ることができる、など。(価値創造)
- ・問題を定義された初めの方は、どのように問題を解決すればよいかかわからなかったけれど、他のクラスメイトの意見を聞いて、わかるようになったり広い考え方になれたりしました。また、他の人の意見を聞いて尊重しあったり、自分から積極的に意見することもできました。そして、グループ内で話し合ったことを他の人にも話すことができました。今後の学びにも活かしていきたいと思います。(協働、自他尊重)
- ・辺の中点や頂点を切り取った図形を見つけている人が多かったけど、なかには正多面体の内部を切り取って正多面体の内部に新たな正多面体を見つけている人もいて、数学の深さをしれた。(幅広く深い教養)

(例3)英語力を向上させる取組(「操山論叢」より抜粋)

教科のテーマを「技能と教養をバランスよく伸ばす指導法の研究～SACLA と GCL を活用した指導と評価の一体化」と設定し、英語科の統合技能 Can-do List「SACLA」と「SOZAN Global

Can-do List」の活用を念頭に置いた授業実践を行い、3年次生の取組を次にまとめた。

●1年次では主に技能面に重点をおいた自己評価を行った。

技能面：①Shadowing②Dictogloss③Retelling④Summary⑤Blank-filling

資質面：⑥幅広く深い教養⑦主体的に行動する力

(⑦は自由記述による振り返りをコメントさせた。)

●2年次では技能面と資質面の両面での自己評価を行った。

技能面：①Retelling②Summary③Blank-filling

資質面：④幅広く深い教養⑤主体的に行動する力⑥自他を尊重する心

(⑤は自由記述による振り返りをコメントさせた。)

●3年次では技能面と資質面の両面で自己評価を行った。

技能面：①Retelling②Summary③Blank-filling

資質面：④幅広く深い教養⑤主体的に行動する力⑥自他を尊重する心

(⑤は自由記述による振り返りをコメントさせた。)

自由記述以外の項目について、Level 1~Level 4 まで評価規準を設定し、言語活動を自己評価させた。この結果と一人一人の振り返りコメントを蓄積し、フィードバックを行いながら、生徒の変容を捉え、授業改善につなげてきた。これを3年間つなげたことで、各年次における技能面の目標がより明確となった。

【技能面】

・1年次の目標：インプットした内容を再現することができる。

・2年次の目標：自分の理解を自分の言葉で表現することができる。

・3年次の目標：初見の情報を理解し、その場で自分の知識と結びつけ、即興的に自分の理解や考えを発信することができる。

また、単元で扱われている話題や考えを深掘りすることで、資質面にも大きな影響が現れることがわかった。

【資質面】

・1年次の目標：単元を終えた後でも、内容を言うことができる。

・2年次の目標：「Why/How」を考えることで、内容を深く知ることができる。

・3年次の目標：自分の考えていることを即興的に伝えたいと思うようになる。

さらに、本校では英語の授業を「発展」「標準」に分けて少人数で行っているが、それぞれの数値的な目標も明確になった。

【数値目標】

- | | |
|-------------|--|
| ・技能面(SACLA) | 標準：1年次：1.5以上→3年次：2.5以上を目指す
発展：1年次：2.5以上→3年次：3.5以上を目指す |
| ・資質面(GCL) | 標準：1年次：1.0以上→3年次：2.0以上を目指す
発展：1年次：2.0以上→3年次：3.0以上を目指す |

自由記述から学習者の特徴も浮き彫りになった。また、そういった学習者たちへのアプローチも観察

を継続することで明確になる。

【自由記述の特徴】

●Good Learners の特徴

- ・具体的に学習方策について言及できる。
- ・内容について詳しく言及している。
- ・自分のパフォーマンスの質に言及している。
- ・表現する際の自分の語彙について言及している(表現語彙が不足しているなど)。
- ・即興性を身に付けたいと考えている。
- ・自分の言葉で、自分の理解を表現したいと考えている。

⇒こういった学習者にはさらに期待値を上げ、関連素材の提示や即興的なやりとりなど、インプット・アウトプットの質を高める活動が必要である。

●Slow Learners の特徴

- ・記述が少なく、具体的でない。
(「～ができない」「～を頑張りたい」といった具体性のない記述)
- ・「文法をやる」「単語をやる」と記述するだけで、具体的な方策について言及できない。
- ・「単語力がない」という表現をよく使う。
(読む際の語彙力のことをいっていると考えられる)
- ・「予習・復習を頑張る」と書くだけで具体的に何をどのように「頑張る」のか表現できない。

⇒今もっている知識・技能で何ができるかを学習者と授業者が共有し、必要な支援を行うことが必要である。

【3年生 GTEC スコアの推移】

GTEC_R4年度(2020年度入学生) 結果(3年生)トータル							
CEFR-j	スコア	2020/12/5(1年次)		2021/12/4(2年次)		2022/6/11(3年次)	
		単純	累積	単純	累積	単純	累積
B2	1190~	0	0	2	2	6	6
B1.2	1060~	11	11	45	47	67	73
B1.1	960~	40	51	63	110	77	150
A2.2	810~	118	169	112	222	93	243
A2.1	690~	91	260	43	265	24	269
A1.3	520~	11	271	2	267	1	270
A1.2	370~	0	271	0	267	1	271
A1.1	270~	1	272	0	267	0	271
Pre-A1	0~	0	272	0	267	0	271
平均		850.8		933.5		978.9	

生徒の自己評価と GTEC の結果を活用しながら授業改善を行ってきた。ここ数年1年12月～3年6月までで約80点程度の伸びが平均的であった。しかし3年生の結果から、順調にスコアを伸ばしていることが確認できる。特にこの学年は1年次から約130点平均スコアを伸ばしており、これまでとは明らかに違う伸びを記録した。これは单元ごとに授業者が具体的な目標を立て、学習者が自己評価を行う流れが確立したためであり、学習者の変容をみながら授業者が改善を継続させてきたことがこの結果をもたらしている。